

令和3年度平塚市子ども・子育て会議
第1回全体会議 会議録

日時：令和3年11月16日（火）午後2時～午後3時30分
場所：平塚市役所本館5階 519会議室

1 会長、副会長の選出

委員紹介の後、互選により会長・副会長が選出された。会長には学識経験者の落合委員、副会長には平塚市民生委員児童委員協議会の黒田委員が選出された。

2 議題

(1) 子ども・子育て会議について

子ども・子育て会議を設置している根拠法令、条例、要綱の内容と役割について、資料1、2、3及び冊子「ひらつか子育て応援プラン」に基づき、事務局から説明した。

【質疑なし】

(2) 今後のスケジュール予定

令和3年度及び令和4年度のスケジュール予定について、「ひらつか子育て応援プラン」は、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間としていて、計画内容と実態に乖離が生じた場合は、計画期間の中間年の令和4年度において、計画の見直しを行うことを資料4に基づき、事務局から説明した。

【質疑なし】

(3) 子ども・子育て支援事業計画について

計画を定める根拠法令、計画の位置づけと施策の体系について、事務局から説明し、その後委員から事前に提出された意見等（資料5）を紹介するとともに、意見交換を行った。

【質疑応答は次のとおり】

・オンラインを活用した相談等への対応について

会 長：オンラインでの対応を希望する意見が見受けられたが、市の対応状況はどのようなか。

事務局：健康課では、新型コロナウイルス感染症の影響から母親父親教室が開催できていない状況にある。その代わりに、母親父親教室の内容を、一部ではあるが動画配信を始めている。また、オンラインによる1対1の相談ができる体制について検討している。さらに、LINE等による複数人によるチャット形式の

相談の場なども今後検討したい。

会 長：オンラインを活用した対応は、口で言うほど簡単ではないと思うが、着実に進めていってほしい。

・地域子育て支援拠点事業について

委 員：1歳の子どもを子育て中の状況にあり、つどいの広場を利用している。コロナ禍のため、午前と午後の2部制で、利用定員が設けられている。日にもよるが、定員オーバーになることもあり、ほかの親御さんからも利用できなかったという声を聞く。コロナも少し落ち着きを見せている状況にあり、感染症対策はもちろん必要だが、利用定員の拡充について検討をいただけると、子育てをしている身としては助かる。

事務局：昨年、最初の緊急事態宣言が発出された際は、市内の公民館など公共施設はほぼ休所をし、つどいの広場についても臨時休所とした。緊急事態宣言が解除された後は、感染症対策を講じながらどうしたら利用を再開できるのかを、国の対応も参考にしながら検討し、一人当たりがどのくらいの面積を利用するか、ぶつからない距離を考慮して、施設ごとに定員を設定している。また、2部制とすることで、お昼休みに施設の消毒を行っている。広場の利用者からは、休所中に育児の相談ができる場所がなかったこと、また遊びに行くところがなくて困ったという声が多く寄せられ、広場の従事者と協議しながら、再度緊急事態宣言等が発出されても、子育て中の保護者が困らないように、感染症対策を講じながら休所せずに開所を継続しているところである。コロナの状況は、少し落ち着きを見せているが、引き続き感染症対策を行い、状況をみながら徐々に従来の利用方法に戻せるよう検討していきたいと考えている。

会 長：一方では感染症対策、もう一方ではできるだけたくさんの方に利用していただきたいという気持ちの表れだと思う。苦慮するところも多いと思うが、引き続き、状況をみながら検討をお願いしたい。

会 長：感染症対策について、事務局から話があったが、委員の所属する幼稚園、小学校、保育所の様子はどうだったのか紹介してほしい。

委 員：「幼稚園」

子どもたちをお預かりする中で、感染させない、外から持ち込ませないことを、園での生活において行うのは大変苦慮した。本来、幼稚園や保育所は子ども同士がくっつきあって育っていくものだが、それが難しい中、家庭でも社会でも様々な方法を見つけてくれて対応してくれている。子どもたちは、食事が終わったら自らマスクをし、手洗いもまめに行い生活習慣が変わってきた。「生きる力」が子どもにも親にもついて、力強くなったという印象をもっている。試行錯誤しながら安全に運営ができて嬉しく思っている。

委員：「小学校」

試行錯誤の2年間であった。その中でも子どもたちの命を守るということを第一に考えて取り組み、それは子どもたちのご家族も守ることでもありと受け止めここまで歩んできた。現場の中で判断しないといけないこともたくさんあるが、幸いにも子どもたちの安全が守られてここまで来たことをほっとするとともに、これからも教職員一同、試行錯誤しながら、子どもが本来経験すべきことが経験できるようにしていくことを大切にしていきたい。

委員：「保育所」

0～2歳児の乳児は感染症対策としてマスクの着用が難しく、職員も子どもたちと距離をとることが難しい中、感染拡大につながらなくて良かったと感じている。コロナというものがどういうものかわからない中であったが、危機感を持ち、情報を共有しながら感染症対策に取り組めたことが良かったのではないかと感じる。引き続き感染症対策に努めるとともに、コロナにより失われたものも大きいと感じるため、子どもの活動については、代わりとなるものを考えたり、元の生活に戻せる方法を模索していきたい。

会長：委員の皆さま、貴重なお話をいただきありがとうございました。

(4) その他

なし

出席者：落合会長、黒田副会長、金田委員、金子委員、鷲尾委員、山田委員、小嶋委員、三尾委員、中野委員、古尾谷委員、三宅委員、長嶋委員、島袋委員、柴委員

傍聴者：なし

事務局：健康・こども部長、保育課長、こども家庭課長、健康課長、青少年課長、学務課長、保育課6人、教育総務課1人

以上